

## 1 佐藤教授による模擬授業

教材「星とたんぼぼ」を学習した児童役の3グループが群読発表をし、聞き手は自分のグループと同じところ違うところを発表する場面。教師は児童の発表をつなげながら、本時の目標に迫っていく。教師の支援・援助の具体的姿を模範授業で示された。

### 【教師の支援】

#### 〈課題提示〉

- 板書による視覚的な提示
- 書いたものを見せながらの、口頭による補足説明
- 何人かを指名し、これからどういう課題に取り組むかを復唱させる。
- 課題遂行にあたっての質問事項を受け付ける。
- 課題に取りかかる指示を出す。

上記のことは、中心課題を提示する際の指導技法として重要であり、「手順や方法の明確さ」が求められる。

#### 〈全体交流〉

- 群読の仕方の違うところ・同じところを見つけて発表させる中で、「どうして変化をつけたのか」を考えさせ、作品世界を想像・創造させる。また、1連と2連の対応関係（対比構造）を押さえることで、作者のものの見方を読み取らせる。教師は児童から出た発言をつないだり、深める質問を投げかけたりして、ねらいに迫る読みを助けていた。

#### 〈板書〉

- 最大の教材の提示法であり、思考を深める（作品世界を読み取らせる）ための補助資料を用いることは有効であった。ここでは、「昼間に出ているが見えていない星」や「たんぼぼの地中の根」をイメージさせる教材を提示した。最後にできあがった板書は、1時間の思考の深まりの全体像が分かるものとなっていた。

#### 〈詩の創作〉

- 詩を感性的に味わい楽しませる一方で、巧みな詩の構造や作者の認識の仕方を知的にとらえさせることをねらいとした言語活動であった。

## 2 佐藤教授による講演

### 国語科授業の成立条件

- プロに学べ
- 教材研究は徹底的に—宮沢賢治（全集を読む，研究図書を読む，記念館を訪ねるなど）  
今江祥智（作品を全て読む，講演会に参加し本人から話を聞く）  
など
- 様々な指導法を学ぶ—教科研修会等での意見交換が大切

### 授業成立のための5条件

- **国語教材**—何でも教材となる。今回であれば「酸素の出る石」「人生ゲーム」はおもしろい教材であった。ただし、子どもにとって最適なのか、子どもにどんな力をつけるためのものなのかを吟味することが必要である。
  
- **学習者** — **年齢差**がある  
(しかし、文学には下限はあるが上限はない。どの学年にでも汎用できる。)
  - **個性差**がある
  - **認知スタイル**の差がある  
(様々な認知スタイルに応じた学習指導を用意し、その子の認知面での特性を生かした指導スタイルはどれかを見極めることが大切。)
  - **習熟度**の差がある
  
- **指導者** — 年齢差、話し方の差、雰囲気の違い(オピニオンリーダー型やカウンセリング型) 服装の差によって授業は変わってくる。
  
- **目標** — 学習指導要領をふまえ、その教材ならではの特質に合わせて目標を考えるべきである。例えば、「ごんぎつね」と「世界一やかましい音」のように教材としての質が全く違うものを読み取る際の目標が、「気持ちをとらえよう」という同じ目標になるのはよくないことである。学習する際の**教師の育てたいことばの力を子どもが学びたいことに変えたものが目標**となる。
  
- **学習方法**— 様々な学習方法があり、教師はそれをツールとしてたくさんもっておくことは必要である。

上記の5つと教室環境、時期、学校行事、学校目標、学級目標は相互に関連をもちながら1つの授業はなりたっている。**授業はいきものである。**

### 研究授業までの期間別 何をどう準備すべきか

理想は3ヵ月である。教材研究、単元計画づくり、学習指導案づくり、子どもたちの言語能力や問題点を調べるためのアセスメント・分析を徹底的におこなう。佐藤教授は「実にこれがおもしろい。」と述べる。1つの例として附属時代にこの期間を1年とって行った事例を紹介された。

それは、2月教材の「動物の体」の学習において、4月から動物園見学を始め、好きな動物を決めて観察させたり、図工でその動物の絵を描かせたり、音楽の時間には動物の音楽を作曲させたりと徹底的にやってから後に、授業に入ったという例であった。

佐藤教授は「それでは、教師の趣味で授業をやっていいかという疑問がうまれてくる。ただ私はやっていいと思います。教師が好きなものでなければ、子どもに『これはいい。』とは言えない。ただその中で子どもにどんな力をつけたいかをはっきりもっておくことが大事である。自分が納得のいく授業をすれば、子どもはついてくる。」と話された。

## 国語科研究授業づくりのための教材

### 文学教材の選定

使用しやすいのは教科書の定番教材である。先行研究も多い。

### 説明文教材の選定

共通教材はない。しかし各学年に応じて「同じテーマの説明的文章」が他社の教科書によく掲載されている。

### 教材探しのポイント

物語文では、同じ作者が書いた物語文、説明文では違う筆者が同じテーマでかいた説明文があるので、それを読み比べたり発展図書として扱ったりすればよい。他社の教科書教材は全てそろえても三万円弱であるのでそろえるもよし。その他、過去の教科書教材は簡単に検索できるようになっている。

## 新しい教材開発

### 〈例：新美南吉の「ごんぎつね」と「かげ」の物語文を比較する学習〉

「かげ」におけるカラスとかげとの関係が、「ごんぎつね」のごんと兵十の関係と重なる。それぞれの作品は、通じ合わなかった二人が、通じ合った瞬間に命を落とすという構想で同じである。

### 〈例：「ごんぎつね」の物語本文と人形劇とを比較する学習〉

人形劇のラストシーンでは、ごんの魂がもえつきるさまを真っ赤な輝きによって表現するが、本文のラストシーンにそのような表現はない。この終わり方を本文のラストシーンと比較するといろいろなものを関係づけて読むことができる。

### 教材研究の方法（オーソドックスな教材研究の順序）

- 1 音読と聞き取り（覚え込むまで）
- 2 視写と書き込み
- 3 意味調べ
- 4 場面分け
- 5 主題・要旨の把握
- 6 資料収集による教材研究

オーソドックスであるが、やはりこの順をふまえてやっていくことがよい。

ことばの力は「きる」と「つなぐ」ことである。語と語、文と文とを関係づけてとらえる力を育てることが大切であり、それができてくれば次に、段落と段落を関係づけられるようになる。そうなれば、1つの中で首尾一貫した読みになっていく。つながりが深くなればなるほどことばの力が豊かになって心が豊かになってくると考える。大切なことは、読み取ることではなく、読み取ったことに対する意見を表現したり、読み取ったことをふまえた意見を述べたりすることである。これが、生きて働く読解力を育てることにつながる。

特別支援の配慮がこれからの時代絶対に必要になってくる。自分磨きのためにいろんな事にチャレンジしてほしい。

## 最後に・・・佐藤教授のことば

『授業力の向上を図るのが研究授業

子どもの力を伸ばすのが研究授業

子どもと教師の関係を築き、一生の思い出となるのが研究授業

大変だけれど、胃に穴が開きそうになるけれども・・・やっぱり夢なんですよね。

いい授業をしたいと思います。

日々の授業が研究授業！』